

会務報告

◇ 委員会報告 ◇

● 大会委員会

◆2011年8月27日(土)、学会会議室において2011年度第3回大会委員会が開催された。主な議題と審議内容は以下のとおりである。

1. 2011年度秋季大会(米子コンベンションセンター)の準備進捗状況

初めてのコンベンションセンターにおける大会であり、主要都市から比較的離れていること、また米子市からの助成要件などを考えると、参加者数を増やすべく広報面でのさらなる工夫が必要であることが確認された。

司会者マニュアルについて、いくつかの変更点を確認し修正した。

2. 2012年度春季大会以降の企画・運営について

2012年度春季大会以降の会場については、2013年度春季大会会場が未定であることが報告され、大会委員会として探索に努めることが確認された。

3. 参加者アンケートについて

回収率の低さや質問事項に関する疑問などの問題点を解消するために、新たな形式で2012年度春季大会から実施することが了承された。

4. 次回の大会応募査読について

大会委員の発表自粛の原則について再検討し、大会委員も応募できるようにした。

5. 発表形態WGメンバーの選出について

前任の3名に代わり新たに庵(取りまとめ)、河路、菊地の各氏が選任された。

◆2011年10月8日(土)9日(日)、とっとりコンベンションビューローおよび米子コンベンションセンターの協力を得て2011年度日本語教育学会秋季大会が米子コンベンションセンターで開催された。参加者は関係者を含めて497名、また、前日の7日(金)の夜から8日(土)の午前中にかけて開催されたワークショップとテーマ別研究会の参加者はおよそ130名であった。

1. 口頭発表、ポスター発表、パネルセッション、デモンストレーションなど通常形態の発表のほか、3つのテーマ別領域別研究会と大会委員会企画によるワークショップが大会に併せて開催され、また、教材紹介コーナーを設けて書籍販売コーナーと共に一般開放した。

2. コンベンションセンターと協力しての開催は初めての試みであったが、関係者の協力態勢が整っており、実行委員会の負担軽減の可能性も見込むことができ、また、とっとりコンベンションビューローの助成金制度が十

分に活用できたことなど、大会開催方法の選択肢の一つとして十分に機能することが確認された。

3. 教材紹介コーナーについては、開催時間や出店の手配の在り方など検討の余地があるものの、全般的に好評であった。

4. ワークショップについては、2日目(土曜日午前中)の時間をより十分にという要望もあって参加意欲が高く好評であった。

5. 懇親会は米子コンベンションセンター内のレストランで行われ、124名の参加者があった。また、アトラクションとして「松江ピノイ カピット ビシッ」によるフィリピンのダンスの披露と活動紹介があった。

6. 両日にわたり、大会会場にて学会による東日本大震災義援金募金活動が行われた。

◆2011年10月9日(日)、米子コンベンションセンター第2会議室において2011年度第4回大会委員会が開催された。主な議題と審議内容は以下のとおりである。

1. 2012年度春季大会の企画・運営について

拓殖大学・阿久津実行委員のご挨拶の後、準備状況の報告を受けた。また、学会創立50周年記念パネルセッション用にパネル枠を準備し、常任理事会での内容等についての検討を受けて協力することとした。

2. 今大会実施状況中間報告

午前中の研究発表・デモンストレーションについては、特に問題はなかった。

今回初めて開催したワークショップ(金曜日(18:30~21:30、迫田久美子氏)、土曜日(9:30~11:30、池田玲子氏))には、38名(申込39名、キャンセル1名)の参加者があり好評であった。今後も継続して実施できるよう検討することになった。

教材紹介コーナーについては、とりまとめが学会ではないなど課題が残されているが、継続して開催する可能性など今後の検討課題とすることとした。

3. 2012年度秋季以降の大会について

2013年度春季大会会場校の探索状況が思わしくないことが報告され、他方、2013年度秋季大会会場校がほぼ決定したことが報告された。

(砂川 裕一)

● 学会誌委員会

11月5日(土)午後2時~5時、日本語教育学会事務局会議室にて委員会を開催した(出席9名、事務局員1名)。7月以後、委員会は編集担当委員(10名)と主査担当委員(30名)に分かれることになったが、新体制になってから初めての委員会である。

委員の紹介を行い、150号・153号の進捗状況と、今年度の科研費の交付が最終的に70万円になったことを報告した後、2012年日本語教育国際研究大会(名古屋)の

研究発表採択審査への協力を要請した。その後、以下について審議した。

1. 副委員長に齋藤ひろみ委員を選出した。これで、副委員長は西口光一委員と齋藤ひろみ委員の二名となった。
2. コラム「海外の学会から」のWGのメンバーとして秋元美晴委員を選出した。これで、WGのメンバーは築島史恵委員と秋元美晴委員の二名となった。
3. 151号投稿論文（投稿総数46本（研究論文24、調査報告6、実践報告9、研究ノート7）を審査した。
4. 155号特集のテーマについて議論し、WGのメンバーを決定した。
5. 第7回林大記念論文賞について、第一次選考と第二次選考のメンバーの選出方法について確認した。

次回委員会予定：2012年3月3日（土）

（山内 博之）

●研究集会委員会

◆ 研究集会報告

1. 2011年度第6回研究集会（関東地区）

日本語教育実践研究フォーラム「実践・研究・実践研究を問い直す」

日時：2011年7月30日（土）10:00～16:30、7月31日（日）9:30～16:30

会場：横浜国立大学

参加人数：192名

内容：ラウンドテーブル9件、ポスター発表19件、パネルセッション「実践・研究・実践研究を問い直す」パネリスト：奥田純子氏（コミュニケーション学院）、才田いずみ氏（東北大学）、細川英雄氏（早稲田大学）、堀井恵子氏（武蔵野大学）

※実践研究フォーラムの発表要旨およびパネルセッションの資料は、日本語教育学会ウェブサイトの研究集会ページに掲載しています。

<http://www.nkg.or.jp/menu-syukai.htm>

（報告者：古屋憲章）

2. 2011年度第7回研究集会（関西地区）

日時：2011年9月17日（土）13:00～17:30

会場：甲南大学8号館821講義室

参加人数：51名（会員34名、一般17名）

内容：講演、研究発表4件

講演講師：山田敏弘氏（岐阜大学）

題目「日本語教育と国語教育との接点—これからの協同に向けて—」

講演においては、日本語教育と国語教育のそれぞれの特質について、対象・教員・目的といった点から概観したあと、従来の国語教育での文法の扱いが形式重視であったこと、それに対し日本語教育の文法が機能重視であることが、具体的例をもとに述べられた。また、国語教

育に日本語教育が寄与し得る可能性が指摘された。最後に、外国人児童生徒教育のための教育実習の実施が急務であることが訴えられた。

研究発表は4件。今回の発表のために来日したオーストラリアの現地教員をはじめ、特色ある経歴と個性を有する発表者によるそれぞれ有益な発表であった。

講演・研究発表の後にはフロアからさまざまな質問や問題提起があり、講演者・研究発表者との間で活発な議論が繰り上げられた。

（報告者：中島孝幸）

◆ 会議記録

1. 研究集会委員会各地区代表者会議

2011年8月30日（火）、日本語教育学会事務局において、研究集会委員会各地区代表者会議が開かれた。主な議題は以下の通りである。

- (1) 研究集会委員長決定
- (2) 地区研究集会の活性化
- (3) 来年度の研究集会募集要項
- (4) 今後の地区研究集会のあり方
- (5) その他

（報告者：小山悟）

2. 研究集会全体委員会

2011年10月9日（日）、秋季大会会場の米子コンベンションセンターにおいて、2011年度第2回研究集会全体委員会が開かれた。主な議題は以下の通りである。

<報告事項>

- (1) 新規委員の紹介
- (2) 会長挨拶
- (3) 各地区からの報告
- (4) 事務局からの報告および確認

<審議事項>

- (1) 各地区研究集会開催状況について
- (2) 学会から支給される開催費用および参加費の統一について
- (3) 予稿集の書式（テンプレート）について
- (4) 地区割について
- (5) 次回全体会議の日程について
- (6) その他

（報告者：小山悟）

3. 研究集会関東地区委員会（実践研究フォーラム実行委員会）

2011年10月18日（火）、11月15日（火）、東方学会会議室において、第4回および第5回研究集会関東地区委員会（実践研究フォーラム実行委員会）が開かれた。主な議題は以下の通りである。

・2011年度第4回研究集会関東地区委員会

- (1) 実践研究フォーラム実行委員長と研究集会関東地区代表者の役割分担に関する報告
- (2) 秋季大会会場での全体委員会会議報告
- (3) 2011年度WEB版実践研究フォーラムについて

※予定していた以下の議題 (4) 今後の実践研究フォーラムの方向性および (5) 2012年度実践研究フォーラム企画については、会議時間の都合上、次回会議の審議事項となった。

・2011年度第5回研究会関東地区委員会

- (1) 今後の実践研究フォーラムの方向性
- (2) 2012年度実践研究フォーラムについて
- (3) Web版実践研究フォーラム原稿の今後の流れ

(報告者：古屋憲章)

※各地区研究会のプログラム詳細、発表要旨、発表募集情報等は日本語教育学会ウェブサイトの研究会ページに掲載しています。

<http://www.nkg.or.jp/menu-syukai.htm>

● 教師研修委員会

◆2011年度の研修実施報告

1. 夏季集中研修 (2日間連続講座)

「教えること」「学ぶこと」を考える

ワークショップ①

「日本語教師のための統計学入門」

講師：黒沢学氏 (東京電機大学未来科学部)

ワークショップ②

「質的研究とSCAT (Steps for Coding and Theorization) を体験する

講師：大谷尚氏 (名古屋大学大学院教育発達科学研究科)

ワークショップ③

「日本語教師の「基準」を意識してみよう—メタ認知知識の活性化を目指して—」

講師：衣川隆生氏 (名古屋大学留学生センター)

開催日：2011年8月6日(土)・7日(日)

会場：(財)海外技術者研修協会 (AOTS)

参加者：3ワークショップ合計93名

2. 日本語教師が知っておきたい「在住外国人の社会参加とことば—日本語教育にできること—」

講師：榎澤幸広氏 (名古屋学院大学)

開催日：2011年11月12日(土) 13:00-16:30

会場：桜美林大学四谷キャンパス

参加者：36名

◆2011年度後半の研修予定

1. デジタル教材作成 (仮称)

2011年5月または6月に開催を予定していたが、会場校の機材都合により今年度は開催できない見込みのため、来年度以降に延期とした。

2. カリキュラム評価を活かした教育実践—学習者の学びを評価に取り入れる—

講師：田中統治氏 (筑波大学)

開催日：2012年1月28日(土) 10:00-17:00

会場：政策研究大学院大学

3. 日本語教師のためのOn-Line IT講座

開催日：2012年1月30日(月)～3月23日(土)

講師：中澤一亮氏 (台湾・元智大学)

監修：畑佐一味氏 (米国・バドュー大学)

4. 専門日本語教育ワークショップ「仕事の日本語」～ビジネス日本語・介護日本語～ (仮称)

講師：春原憲一郎氏 (AOTS), 神吉宇一氏 (AOTS), 近藤彩氏 (政策研究大学院大学), 品田潤子氏 (AJALT)

開催日：2012年3月3日(土) 9:30-16:30

会場：政策研究大学院大学

※「日本語教師研修」についての参加募集詳細は決定次第、日本語教育学会ウェブサイトに掲載します。
<http://www.nkg.or.jp/menu-kenshu.htm>

◆会議記録

1. 2011年度第3回教師研修委員会 (10月1日)

(1) 2011年度夏季集中研修の報告と反省

(2) 2011年度後半の研修実施予定および進捗状況

(3) 2012年度の研修計画

(4) 今後の会議日程確認

※2011年度後半の会議予定

第4回教師研修委員会 (2011年12月1日)

第5回教師研修委員会 (2012年1月21日)

第6回教師研修委員会 (2012年3月17日)

(古川 嘉子)

◇ 事務局からのお知らせ ◇

● 2011 (平成23) 年度会費納入のお願い

当学会の事業活動の円滑な推進を通して、会員をはじめ関係者各位の教育・研究に資すること、並びに、海外における日本語教育活動との交流や支援に寄与することが一層求められています。学会の活動の重要性をぜひご理解賜り、会費納入にご協力くださいますようお願いいたします。

ご送金の際は、必ず会員番号を通信欄に明記してください。

<会費納入方法>

○郵便振込 00140-5-64631

○みずほ銀行新橋支店 (普)130-880757

○現金書留

○クレジットカード支払 (海外在住者のみ受け付けます。事務局にお問い合わせください)。

● 年度会費自動引落システムのご案内

日本国内に銀行口座等をお持ちの方々を対象に、「年度会費の自動引落システム」をご用意しております。全

国の金融機関(銀行・信用金庫・信用組合・郵便局等)でご利用いただけます。詳しくは事務局会員サービス係(kaiin@nkg.or.jp)までお問合せください。

<年会費>

- 普通会员 10,000円(年額)
- 賛助会員 一口50,000円以上(年額)

● 住所等の変更について

次頁の書式にご記入の上、郵便または下記のいずれかの連絡先にお知らせください。

FAX : 03-5216-7552 / E-mail : kaiin@nkg.or.jp

なお、メールアドレスを新設された方や、メールアドレスを変更された方は、①会員番号②氏名③名簿への記載の可否を、メールでお知らせください。タイトルは「学会員メールアドレス登録」としてください。電話での連絡は、ご遠慮願います。

● 学会誌メールアドレスについて

学会誌に関連するお問合せは、学会誌専用アドレスにご連絡ください。

学会誌専用 : gakkaiishi@nkg.or.jp